

「岳陽」と共に

第 9 号

発行日
2023.8. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○やつとの思いで帰沖ー何というハプニングの連続！

戻ったら、予定していたタイトル(話題)で書こうと思
っていたが、あまりにも、今回の旅(福岡・岡山・鳥取)の
インパクトが強すぎて、急遽変更して、この旅でのことを
題材に書いていくことにする。なお、予定のタイトル(話
題)は、何故か、忘却のかなたへ…(何と言う記憶力?)!!

とにかく、まずは出発日(先月28日)、台風5号の影響
で飛行機が飛ぶないことを心配していたが、予定通り飛んで
くれて、初日の福岡での、高校時代の旧友との再会(宮地
嶽神社訪問を含む)も実現したが、次の、思いもよらぬ台風
6号の襲来によって、帰沖の日(31日)が大幅に遅れた!
本当に予期していなかった事態で、我が家に戻れたのは、
実に、月が替わった3日であった(結局、2倍の日数)!

延泊は、幸いにも、福岡にいる次女のアパートで出来た
ので問題はなかったが、帰りの便のチケットがなかなか取
れず、3日の便となった次第である(移動の大変さはあった
が、4日の、鹿児島空港からの便も押さえてはいた!)!ちな
みに、これらの手配もまた、我が奥さんによるものであ
る!何という人なのか(スマホの達人?)!

しかし、ここには、思わぬハプニング?そして、さらな
るアクシデント?が挟んであり、まさにとんでもない旅と
もなった(飛行機は飛んだが…笑!その一つがコロナ感染
未遂事件で、我が奥さんが、鳥取でもらったかもしれない?
?コロナの濃厚接触者となり、二日間は、次女のアパート
で、逼塞状態で過(こ)し、何とか確保した3日のチケット
で帰れることになったのであるが、福岡に引き返すことも
あるという条件の中での、ひやひや帰路であった!

「だが、あにはからずや、次なるハプニングが、密かに
待ち受けていた!というのも、現在空港の上空に雷雲が
発生しており、出発を見合わせるということであった!
もちろん、それでも帰れるなら、それもやむなしとい
うことで、2時間近く待って、いざ改めて出発というこ
とで、畿内に着席して、しかも、いざ離陸という直前に、
今度は、機長からの、予期せぬ畿内アナウンスがあり、
冷房システムの異常で、回復に時間がかかるということ
で、待っていたが、結局回復せず、思いもしない、機材
変更ということにまでなってしまう!よくぞ、こんな
ことがあるものである(まさに初めての経験!)!!

乗客全員、荷物ともども、搭乗口まで戻され、1時間
半くらい待たされ、やつとの思いで、再搭乗の運びとな
った!都合4時間くらい遅くなったが、幸い那覇空港に
は降り立つことが出来た!本当に、やれやれであった!
ついでながら、家に着くと、電気はついたが、断水状
態であった!とにかく、大変な旅であったわけである!
Ouchuu、私(達)のところにもコロナが来た!!

なお、ここには、この話の続きともなるが、どう
とう私(達)のところにも、コロナが来たのかというこ
とで(鳥取で濃厚接触者となりわけ我が奥さん!)、
まさに、覚悟をしたということであるが、どういふ訳か、
一緒に行動した私達(家族全員6人)は、全員発症する
ことはなかった(本当にやれやれである!)!

ただし、(私達の)この結果が、都合6回のワクチン
接種の賜物なのかどうかは分からない!まだまだ、コロ
ナの脅威は、そこそこにあるということでもある!

○今も継続中の台風禍!世界的な異常?

こちからは最後になるが、こんなに長い時間、私(井上)の
日常生活(旅を含む)を混乱させていながら、今回の台風(6号)
は、まだまだ近海をうろつき(進路が変わり、動きも遅い!)、新
たに九州地方を襲おうとしている!そしてまた、その東方海上
には、俄かに新しい台風(第7号)が発生し、盆休み期間、日本
本土(東日本+西日本)を直撃しかねない動きを見せている!!
地球温暖化の影響で、これまでの気象条件が、かなり変質し、
かつて経験したことがないような、世界的な異常気象が、各地
で出現してきているようであるが、今回の度重なる、そして奇
妙な動きを見せる台風の襲来は、その一環なのかもしれない!!

そんな中、今回の台風(6号)から思い出されたのは、いつの
ことだったかは定かではないが(他にも、台風によって、予定して
いたスケジュールやイベントの中止・変更は、数限りなくあるが!)、
ある時の台風が、東シナ海上で東西を行き来し(ほとんど一直線
上?)、その間の学部行事(ユース・クロスロード、確か日座間味?)
が出来ず、秋に、やり直したことである!

ちなみに、その時は、何故そのような動きとなったのかは分
からなかったが(自然・神?のいたずらだと思っていたように
も思う?)、今回、改めて分かったことは、その原因が、太平洋
高気圧の張り出し具合(偏西風の動きも連動した?)によるもので
あるということである!

とにかく、ここ沖縄は、毎年、このような台風禍に悩まされ
るのであるが、実は、冷静に捉えようと、本土でも、毎年、どこ
かで水害に見舞われ、各地で、その爪痕、悲しい記憶が、積み
重ねられている(テレビ等で、それぞれの慰霊祭等が、頻りに紹介さ
れている!)!今や、全国どこでも、そうした災害が起(こ)り得
ることを示しているわけである(「ゲリラ豪雨」や「線状降水帯」
といった用語の使用は、まさに日常茶飯のこととなっている!)!

末尾だが、災害による行事の変更ということも、もう一つ思
い出されるのは(生涯学習教育研究センター長時代)、かの3・1
1のことで、文科省との共催で開いた大々的なイベントが中止
となったことである(後日開催!大変な思いをした!)!(井上)

『パンコンな』で過した1週間！

さて、表のI氏の報告？からも分かるように、私堂本の方は、一週間も、パソコン操作から離れてしまったこととなる！多分、こんなことは、この地に引越してきて初めてである！しかも、たとえ旅先であっても、何かを考えたり、本を読んだり、はたまた短歌の走り書き等を準備しながら、I氏と共に、私堂本も動き回るのであるが、今回は、そのようなハプニングやアクシデントの連続が、現実の行動を甚だしく規制するものでもあったので、ほとんど何の蓄えもなく、帰宅した次第である！

しかも、心配だったのは、パソコンに向かう気力であったが、案の定、台風之余波も続いたこともあり、ほとんど芳しくない状態で、数日を過ごしたことになるわけである！つまり、この間は、単なる旅先脳、日常脳(要するに、その日、その時に、取り敢えずは何をするのかだけを考えている状態?)であったわけであり、いわゆる「思索脳」ではなかったということである！だから、なかなか文章がうまく作れず、この記事作成も、あつちにいったり、こつちにいったりの状態を進めている次第である！

ということ、これからの、『岳陽』と共に」の記事作成も、かなりの難渋を強いられるものになるうが(もちろん、台風後の厳しい暑さもあって)、まだまだへこたれるわけにはいかない！それは、まさしく自分達のためでもあるが、様々な分野・場所で、それこそ身を粉にして(天いなる労苦を背負いながらも)、否、自分の人生の実現・成就のために、一生懸命に頑張っている人がいるが(当然、自国の存続、尊厳を守るために命を賭して戦っている人達も含めて)、その人達に申し訳ない!!

とりわけ、私の方は、そうした人達と、心のどこかでつながっていたい！あるいは、そういう人達の、何かの役に立つ存在でありたい！そういう思いで(こ)までできたわけであるので、これからも、そうありたいと思っわけである!!たとえ、それが無力であったとしても!!

100歳で、「生きて」孫達を集めて何とどう違え!!

ところで、このことは、是非、私堂本の方から付け加えておきたい！それは、今月で100歳となる義母のことである！今は、それを祝う会も、おそらくあちこちで開かれているだろうが(沖繩では、そのお祝いを「カジマヤー(風車)」と呼んでいる、我が近親者には、これまでそういう人がいなかった)、いささか驚いているわけであるが、それはともかく、ここで言いたいことは、この100歳の義母老女が、自らの孫達を全員(曾孫を含む)、「生きて」、一堂に集めたということである(過ぎ去った、若かりし頃のよに！)！私は、このことに、いたく感動するのである！

ただし、余計なことであるが、三人の子ども達(連れ合い含む)の二組は、実はコロナ感染で、出席が叶わなかった！したがって、何とも奇妙な集まりとなった(まるで「いと云」の様)。しかも、これには後日談？があり、当の義母も、次の日に感染が確認されたということである！当日、それが分かっていいたならば、その会自体も、本当は実現しなかったということでもある！何という「遅しき」！

短歌に託して「よくぞこんなにいるんなことが!!」

・台風 コロナ 雷雲 そして空調！
よもやこんな旅に なつうとは!!

・だがこれもまた 楽しき
そして思い出深き 旅となる!!

・福岡・蒜山・鳥取 懐かしき家族旅行
こんな光景 昔は沢に

・100歳の老女 コロナに負けじ
生きて孫達集む いと凄し!

・宮地嶽 福岡・佐賀・長崎に 散在す
この理由も明かす 文献欲す

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史探検⑨

〇 残念ながら、「宮地嶽神社」の謎は追えなかったが...!!
翻って、今回の旅の、もう一つの楽しみであった「宮地嶽神社」訪問であるが、残念ながら、その謎は追えなかった(ある意味当然ではあるが!)
!!ただし、巨石(近くの相島から運ばれた玄武岩)古墳(6世紀末建立?)横穴式石室/大塚古墳/円墳/奥之宮三番社不動神社。日本一の大きさを誇る中から見る事が出来て、貴重な体験とはなった!いずれに改めて、その古墳は、当時の北部九州の王(安曇族?)墓とされ、その黄金の出土品多数(国玉)から、地下の正倉院とも呼ばれているようである(金の鎧・冠・馬具類・大太刀等数多くの埋蔵物が発掘され、20点が国玉に指定)！有名な「光の道」は、当然現れなかったが、後背の山(在自山/宮地嶽)と社地、そして、階段と鳥居が織りなす光景は誠に秀逸であった!しかも、その鳥居の神紋が、かの「三階松紋」(老松)であったことを後で知った(本当は、ここに迫りたかった?)！やはり、そして、そこには、改めて「安曇族」との関係もあるわけである!

これは、筑後(第9代)開花天皇あるいは藤原大臣?)と関係がある!とほ言え、これだけの収穫で終わるわけにもいかないので、新たにネット上の情報を探してみると、何と、この「宮地嶽神社」、ここを総社として、福岡・佐賀・長崎に散在しているとのこと(17社。我が故郷唐津には2社も!)、しかも、それらは、見ようによっては、例の筑後の高良大社周辺と背振山系を、それぞれ取り囲むように配置されている!!

まずまず興味を沸くのであるが、もちろんその詳細は分からない!何故、「宮地嶽神社」がそのように配置されているのか?どこかに、その情報はないものか?だが、そこが、新たな謎(「空白の4世紀」の真相解明の道?)として、浮かび上がってきたことだけは確かである!! (堂本)

〈編集後記〉ということで、以上、台風を挟んだ、本土への旅のこと(そこにあつた数々の事件?)を、過去の思い出とともに書き記してきた!本当に、旅は何が起きるのか分からないもの!!ちなみに、古代史では、結果的には「宮地嶽神社」への接近が、少し出来たのかもしれない!!とにかく、かの「神功皇后」伝説は、大いなる謎(真実?)を有していることは間違いない!!(弁上)堂本